

「三密を防ぐには少人数クラスは
必要な措置である」
自民党吉本県議談

<私教連メールアドレス chibasikyoren@outlook.jp> 2020.9.30 No.581

千葉私教連情報

〒263-0023 千葉市稲毛区緑町 2-16-1 tel: 043(248)2387 fax: 043(242)4664

千葉県議と懇談

運動の前進に歩みを止めるわけにはいきません

千葉私教連は、9/17 学事課交渉に次いで、9/23~10/1 に県議会議員 5 氏と懇談しました。

2020 年度国の就学支援金制度拡充に伴い、千葉県は授業料減免制度を拡充しました。県議会でも私学の学費負担軽減等のため経常費増額を求め国に意見書を提出しています。千葉私教連は、制度拡充の報告とお礼、併せて全国各県の学費・授業料補助制度の内容を報告し、とりわけ東京都と千葉県の境界にある私立高校で生じている同学校、同クラスでの学費負担格差について「格差が生じないよう、制度拡充が必要」と訴えました。また千葉私教連として取り組んだ5月末滞納調査結果からコロナ禍で滞納者が多く出るなど生徒・保護者の学費負担の実態を報告しました。オンライン授業等に対する文科省補正予算を活用して神奈川県が補助を議決したことで、私立高校生全体が Wi-Fi を活用できるようになったことなどを説明し、千葉県でも同様の補助の必要性を訴えました。そして『ゆきとどいた教育』『生徒が安心して学べる』環境づくりのための少人数学級が求められており、そのための専任教員増、教室増築等への更なる経常費増額が必要であることを訴えました。

9/23 加藤県議、三輪県議 (日本共産党)と懇談

加藤県議、三輪県議と懇談。森委員長から資料説明、私学の現状を報告し、課題点を訴えました。小島副委員長は、自治体間格差に触れ、国の制度として格差をなくしてほしいと訴えました。



左奥から森委員長、矢田父母懇会長、小島副委員長
右奥から加藤県議、三輪県議

三輪県議は、学費滞納調査の結果に驚き、地域商店街や中小企業の収入減など申告な課題について、加藤県議は、市川の私学には東京から4割近い生徒が通っていること、少人数学級は学びの保障、コロナ禍でのまったなしの課題だと述べ、国と県に対しても働きかけていくとはなしていただきました。

9/17 の対県要請につづき、9/23~10/1 の期間、千葉父母懇と千葉私教連は、共同で県議会各会派との懇談に取り組みました。自民党から共産党まで、4つの会派を訪問し、私学の学費実態父母の思い、補助の自治体間格差、学校での教職員の激務の状況などを伝え、更なる拡充に向けての、力添えを求めました。

千葉独自のとりくみである5月学費滞納調査結果に驚かれ、学費へのコロナ禍のこれからの影響を心配し、年収別の学費負担状況を質問するなど、約束の時間を超えてまで、どの議員も真剣に熱心に訴えに耳を傾けてくださりました。千葉の今年度の運動における重要な布石となる行動でした。 県向け署名の紹介議員となっただき、請願採択につながる事が期待されます。

9/24 鈴木県議 (千葉民主の会)と懇談



鈴木県議は、私学教育を担当する総務防災常任委員です。私教連からの『懇談のお願い』を受け、直ぐに返信 FAX を返してくださいました。

就学支援金制度導入により千葉県の授業料減免制度がどう変わってきたか、近隣都県との制度の違いによって何が生じ

たか、私学の教員がコロナ禍で更に多忙となっている現状について、真剣に聞いてくださいました。

鈴木県議からは、学費負担の年収別割合はどうなっているか等の質問があり、私学教育の前進に向けた積極的な姿勢を感じました。



右奥が鈴木県議
左奥から森委員長、矢田父母懇会長、小島副委員長

9/25 吉本県議 (自民党)と懇談



吉本県議は、毎年懇談を受けて頂いています。公私問わず教育問題にも取組み、率直なご意見を話してくださいました。

コロナ禍の早い収束を願っているとし、「三密を防ぐには少人数クラスは必要な措置である。タブレット普及も必要だが、子どもたちの成長には集団での直接・対面授業も必要だ。」と述べ、学費滞納については、「これから影響が出るのでは」と危惧されていました。

10/1 秋葉県議 (リベラル民主)と懇談

秋葉県議には、ご多忙のなか15分と制約のあるなかでしたが、時間を超過しての懇談となりました。ありがとうございました。

私教連からは森委員長、小島副委員長、君塚副委員長、県父母懇宮澤会長が参加しました。

秋葉県議は、森委員長の説明をメモを取りながら聞き、またその時々質問したりと、真剣に聞いてくださいました。



* 本会議中にも関わらず、懇談を受けていただきありがとうございました。